安曇野滞在制作演劇作品

かいころく 工女編・蚕種編

京都を拠点に活動している劇団「安住の地」が養蚕をテーマに安曇野に滞在して制作した作品を上演します。

かいころく 一場面

1月31日(土)・2月1日(日)　蚕種編　11:00〜12:20　工女編　14:00〜15:00

場所　安曇野市美術館多目的ホール
費用　1作品1,000円・2作品セット券1,800円　高校生以下無料
定員　各回40人(先着順)　申し込み　右記2次元コードまたは電話で
問い合わせ　文化課　TEL71-2463

貞享義民記念館

企画展 中林梧竹と安曇野

筆が結ぶ明治のこころ

明治の三筆の一人中林梧竹。彼が安曇野に残した書から、地元の人々との交流をひもときます。

期1月17日(土)〜3月1日(日)
場1階企画展示室　費無料
問貞享義民記念館　TEL77-7550

貞享義民記念館

令和8年度企画展示の募集

個人や団体の活動成果を発表してみませんか。

対市内在住・在勤・在学の人、市内に所在する団体
申12月23日(火)〜2月15日(日)に申込書を直接・ファクス・郵送・電子メール(✉gimin@city.azumino.nagano.jp)のいずれかで。
募集要項等は記念館HP(ホームページ)から入手できます。
提〒399-8101 安曇野市三郷明盛3209
問貞享義民記念館　TEL77-7550　FAX77-7551

京都芸術大学連携アートプロジェクト

2026AKAP冬展

京都芸術大学大学院生が地域との交流を通して制作した作品や、同学卒業のアーティストと図書館がコラボレーションした作品を展示します。

日1月9日(金)〜18日(日)
9:00〜21:30(最終日は17:00まで)
場穂高交流学習センター「みらい」展示ギャラリー、中央図書館
費無料　問鐘の鳴る丘集会所　TEL55-3131

■ワークショップイベントを開催します

上記展示に携わった学生による、どなたでも参加できるワークショップです。参加者にはノベルティをプレゼントします。

日1月10日(土)　10:30〜11:30
場穂高交流学習センター「みらい」多目的交流ホール
費無料　申不要

施設名	展覧会・イベント	日時・場所	費用・定員・申し込み
豊科郷土博物館 TEL72-5672	新春書芸展・冬季特別展	期1月10日(土)〜2月1日(日) 場2階展示室	費要入館料 申不要
	新春書芸展ギャラリートーク 講千野秀濤さん(書家)	日1月15日(木)　14:00〜 場2階展示室	
文書館 TEL71-5123 FAX71-5127	バックヤードツアー 文書館って何するところ	日2月15日(日)　13:30〜15:00 場2階講義室	費無料 定30人(先着順) 申12月23日(火)から電話・ファクス・電子メールのいずれかの方法で ✉bunshokan@city.azumino.nagano.jp

■休館日、開館時間などは各施設へお問合せください。
■穂高郷土資料館は12月26日(金)〜2月28日(土)まで冬期休館します。

トピックス

轟(とどろく)家住宅が市有形文化財に指定

江戸時代に保高組の大庄屋を務めた轟家住宅(豊科重柳区)が10月24日に市有形文化財に指定されました。来年度からは主屋内部を一般公開します。
今回の指定で市指定文化財は159件となりました。
問文化課　TEL71-2464

轟家住宅主屋

第38回　コラム　市誌編さんだより

安曇野の地下に広がる「見えない海」

市誌編さん専門調査会　自然部会　専門調査員　榊原 厚一

左下の写真は安曇野市と信州大学、地元企業が合同で地下水調査をしている様子です。安曇野の田んぼの下には、広大な「地下の海」が静かに広がっています。地表から数メートル〜数十メートルの深さに水面があり、目に見えない場所で地下水がゆっくりと流れているのです。

この地下の海の源は北アルプスや筑摩山地です。安曇野の年間降水量はおよそ1000ミリメートルですが、山岳域ではその数倍もの雨や雪が降るといわれています。山々に降り注いだ水は地表や地中を流れて下り、やがて安曇野がある松本盆地へとたどり着きます。このように私たちの暮らしを支える豊かな地下水は、山々との深いつながりの中から育まれています。

湧水は地表で地下水を見ることができる唯一の場所で、地下水の窓とも呼ばれます。各地で見られる湧水は、山から海へと流れる地下水が一瞬だけ地上に現れた貴重な姿です。目に見えない地下に広がる海の成り立ちを想像すると、私たちと同じように水も旅をしていることに気付かされます。

地下水調査の様子(観測用の井戸で地下水位を測定)